

礼文の森から

宗谷森林管理署
礼文森林事務所

森林事務所の仕事紹介

林野庁では、森林の持つ機能を十分に発揮できるよう国有林の管理経営を行っています。

そこで、これから数回に分けて、林野庁の仕事内容を皆様にご紹介していこうと思います。今回はその第2回目です。

林野庁は山づくり（森林整備）を「地拵え→苗木の植付け→下刈り→除伐→間伐」という流れで行っています。第2回目は苗木の植付けについて説明します。

苗木の植付け・・・言葉のとおり、苗木を地拵えした土地に植付ける作業。
すべて人力によって植えられます。

苗木の植付け作業



クワで穴を掘り、苗木を一本一本ていねいに植えていきます。
機械化できない大変な作業です。

きれいに並んだ植栽木



さあ、成長競争のスタートです。
植栽木は周りの木々と競争しながら空へ向かって伸びていきます。

苗木はふつう、苗木畑という畑に種をまいてつくりまわす。高さが30～60cmくらいの丈夫な苗木になるまで育てます。

また、苗木は「さし木」によってつくることもできます。親木の若い枝の先を切って土にさし、根を出させます。親木の性質を受け継ぐので、よい親木を選べば、よい苗木が生まれ、種からつくる苗木に比べて育てる期間が短いという利点があります。

苗木は種をまいて3年から5年で山に植えられるようになります。早春の頃が植付けの時期です。



右側中：礼文 召国付近の造林地
右側下：10年後の写真（昨年撮影）